

# きもつき119

編集・発行 大隅肝属地区消防組合  
TEL 0994-43-1188

みんなで  
守ろう  
文化財



管内の人口

146,405人	平成26年2月1日（現在）	
男	女	世帯数
69,485	76,920	69,673

二階堂家住宅（肝付町 昭和50年6月23日に国の重要文化財に指定）

## 平成26年春季火災予防運動

### 3月1日～7日まで

春の火災予防運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及や火災の発生を防止し、高齢者等を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的として、毎年この時期に全国で実施しているものです。

この予防運動期間中、管内のいたるところで消防署・分署を中心とした訓練やパレード、消防の広場等のイベントが催されます。

平成26年3月

第 84 号

# 悪質訪問販売にご用心

高齢者や一人暮らしを狙った悪質業者が増えています。

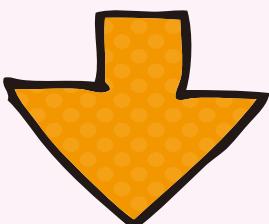
消火器点検業者を名乗る男が、「消火器の詰替えにきました」と、高齢者宅を訪問しました。

「現在使用している消火器は重いから軽いものと取替えをしましょうか」と言われ、軽いものに交換し請求額を支払ったところ、交換された消火器は古い物（20年前）だったという事案も発生しています。



## トラブル防止 のために

ポイント



覚えておいて  
ください

### 1 一般家庭に消火器の設置義務はありません。

一定規模以上の事業所を除いて、消火器を設置する義務はありません。

強引に購入を勧める業者には気を付けましょう。

（しかし、消火器を備えておくと、もしもの火災に大変役に立ちます。）

### 2 消防署員が消火器の販売をすることはありません。

「消防署の方から来ました。」と言って消防署員を装い、消火器を販売するケースもあるようです。消防署が消火器を売るようなことは一切ありません。



もし、気付かずにサインや承諾をしてしまったら・・

一般家庭では、**8日以内ならクーリングオフ**（一定期間の契約解除）が可能です！



## つけましたか！住宅用火災警報器

火災件数は起きている時間帯が多い一方で、**火災死者数は就寝時間帯の方が多くなっています**。一般家庭の就寝室等には、住宅用火災警報器をつけるのが義務になりました。（平成16年6月の消防法改正）

設置されていないご家庭は早急に設置をお願いします。また、すでに設置がお済みのご家庭は、いざという時の為に日頃から警報器の電池切れ等の無いように**維持管理**につとめてください。

義務ですよ！



# 冬のお風呂は危険です

## 入浴事故の実態

全国では、2011年（平成23年）の1年間で、約**17,000人**もの人々が入浴中に急死したと推計されており、同じ年の交通事故の死者数約**4,600人**のおよそ**4倍**です。とくに**高齢者**が多いです。



## 『ヒートショック』・ご存知ですか？



**冬の寒い時期**に、暖房の効いた暖かい部屋から廊下やトイレに行くと、「ゾクゾクッ」と震えることがありますか？

この状態も「ヒートショック」の一種です。「ヒートショック」とは、急激



な温度変化が体に及ぼす影響のことで、室温の変化によって**血圧が急激に上昇したり下降したり**、**脈拍が早くなったりする**状態です。

室温の変化により人間の体は、体温を一定に保つために、血管が急激に収縮し、血圧や脈拍の変動を起こし、**心筋梗塞**や**脳血栓障害**などに、つながりかねない**危険な状態**です。

### 影響を受けやすい人

- ①65歳以上
- ②高血圧、糖尿病、動脈硬化の病気、不整脈がある
- ③肥満気味
- ④脱衣室、浴室に暖房器具がない
- ⑤熱い風呂が好き
- ⑥飲酒後に入浴がある



### 事故を未然に防ぐには

- ①高齢者や心臓病の人に入浴中は、声かけをする
- ②暖房器具を設置する
- ③お湯の温度は41℃以下に
- ④入浴前後に水分補給
- ⑤食事前後、飲酒後、降圧剤を飲んだ後に入浴しない



### もしも、入浴中に意識を失ったのを見たら

- ①大声で助けを求める
- ②溺れる可能性があるので、風呂の栓を抜く
- ③体を水中から引き上げ、風呂から出す
- ④体をタオル等で温める
- ⑤呼吸をしていなかったら、心肺蘇生を行う
- ⑥119番に電話して、救急車を呼ぶ



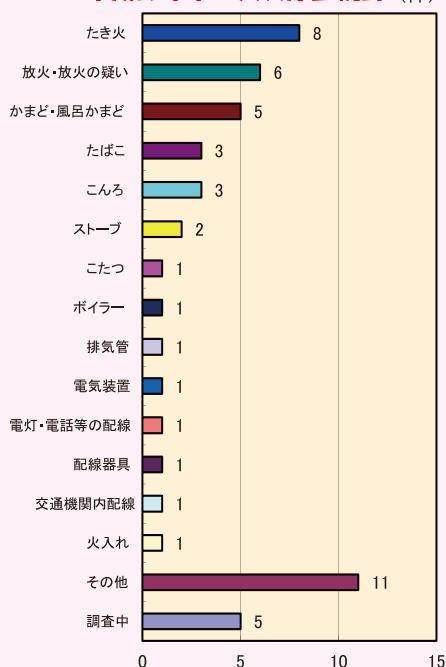
中央消防署 車庫内

## 高規格救急車寄贈

9

平成二十五年十一月二十九日に高規格救急車の受納式が行われました。今回寄贈を受けた高規格救急車は、一般社団法人日本自動車工業会が社会貢献事業の一環として、全国の消防本部に寄贈しているものです。同会の松元行弘総務統括部長は「自然災害など救急車の需要は幅広くなっている。有効に活用してほしい」と述べられました。従来の普通救急車と比べ、救命率の向上が期待されます。救命率の確保が確保され、この患者室を大幅に拡大し、救急業務の高度化に対応するため、隊員のゆとりがある活動スペースを確保します。また、消防組合が所有する救急車で、いよいよ高規格車となりますが、期待されます。

### 平成25年中の火災原因統計 (件)



平成25年中、管内で51件の火災が発生しており、その原因として最も多いのは「**たき火**」で**8件**でした。



#### たき火による火災を防ぐポイント

- ・周りに可燃物がある場所を避ける。
- ・いつでも消火できるよう、水道ホースや水バケツを用意する。
- ・絶対にたき火をしている場所から離れない。
- ・風の強い日には、たき火をしない。

火災原因で2番目に多いのは、「**放火、放火の疑い**」で**6件**でした。放火による火災は夜間から明け方にかけての発生が多いです。



#### 放火による火災を防ぐポイント

- ・建物の周囲・物置・車庫など、人が侵入しやすい場所は、施錠の管理をきちんと行い、外部からの侵入を防ぐ。
- ・照明器具を設置し、暗がりを作らない。
- ・建物の周囲に燃えやすい物を放置しない。

### 平成25年中の救急件数は… (件)



平成25年中の救急件数は、6,698件でした。平成24年から324件増え、10年前と比較すると、約1,600件増加しています。

また、搬送人員は6,386名で、このうち2,488名（約40%）が軽症者でした。（下の円グラフ）



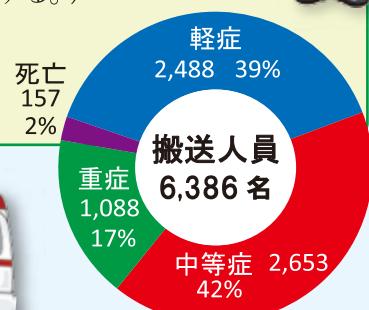
#### 軽症者数が増えると…

1. 救急車の現場に到着する時間が遅れる。  
(遠い消防署から救急車が出場するから。)

2. 病院の受け入れが困難になる。

(病院の救急室がパンクする。)

などの問題が生じ、重症患者への対応が遅れることにもつながります。



「**救えるはずの命**」を救うために、  
救急車の適正利用をお願いします。

